

木育 MOKUIKU KAWARABAN

知ろう、使おう、広げよう、みやぎきの木

木育かわら版は森林環境譲与税が使われています

CONTENTS

■ 宮崎工業高校インテリア科 木育教室	… 1
■ 年中児後期「マイ箸」作り	… 2
■ 木育マイスターの取り組みのご紹介	… 3
■ 都城木青会 リクルート木育	… 4

宮崎工業高校インテリア科 木育教室 都市部における木材利用事例見学ツアー

日 時: 令和7年1月14日(火) 13:30~15:30
場 所: (株)内田洋行(東京都中央区新川2-4-7)
参加人数: 38名(生徒34名、教員1名、事務局3名)

宮崎工業高校インテリア科の2年生が修学旅行において、県産材を活用した会社見学や活躍するウッドデザイナーの講演などを通じて、資源循環の取組について学びました。

▶ 社長挨拶、会社見学

「みやぎき林業大学校」の名誉校長でもある(株)内田洋行代表取締役社長の久保氏より会社見学を通じ色んなことを学んでほしいとの言葉と、パワープレイス(株)代表取締役社長の前田氏から会社概要と木材利用の紹介がありました。

その後、3班に分かれ本社の見学を行いました。



(株)内田洋行代表取締役社長
久保 昇 氏

パワープレイス(株)代表取締役社長
前田 昌利 氏



本社5~7階、第2ビル2、4、6、7階の見学



奥 ひろ子 氏

谷知 大輔 氏



▶ 講演1 「人づくり、ものづくり、まちづくり」

講師: パワープレイス(株)
教育公共ソーシャルデザイン部 奥 ひろ子 氏

吉野材を活用した学童机、飢肥杉を活用したsugift、東京おもちゃ美術館、山形県高鼻町遊戯場「もっくる」、山形県高鼻町図書館、日南市子育て支援センター「ことこと」等、国産材を媒介にまちづくりに関わる製品・空間デザインに取り組んでいる。

奥氏より、デザイナーや入社の経緯が話された後、会社でのデザイン活動についての説明がありました。特に奥氏は地域資源を活用したデザインに取り組まれており、その事例の紹介がありました。

また、モノだけではなく、地域の魅力や人、暮らし、文化をどう繋ぎ発信していくか、施設を運営していくための人づくり・ファンづくりも含めてデザインを行うことで、地域の豊かな暮らしづくりに波及していることを高校生に伝えました。

▶ 講演2 「面白い！と思ったことを仕事に ~ ウッドデザインの仕事から」

講師: パワープレイス(株)
教育公共ソーシャルデザイン部 ウッドデザイナー 谷知 大輔 氏

丸太の調達から加工、納品までを地域で適正な価格で仕事を行えるようにし、地場産業の活性化にも繋がる「タニチシステム」を開発。全国で木と人を繋ぐ取組を行っている。

谷知氏より、タニチシステムが構築された山形県高鼻町での取組の紹介がありました。地域の事業者と交渉し、流通コーディネーターや関係者のモチベーション向上に取り組まれたこと、施工場所によって節あり材をデザインとして取り入れるなど、地域材の活用率の向上に取り組まれたことを説明しました。

木材調達業務以外にも、武蔵野美術大学の学生と宮崎県で森林・林業、木材産業に関わる産学連携プロジェクトも紹介がありました。

最後に、仕事をする上で大事にしている武士の7徳と豊かな未来に繋げるために人と木の関わりをデザインする大切さを教えていただきました。

ひかりの森こども園 (三股町)



ひかりの森こども園は、教室の中にお箸作りコーナーを設けて磨きたい園児がいつでも磨けるようにしています。

完成したマイ箸



この園で年中児はまだお箸を使わせていませんが、マイ箸作りが完成した園児は、日常保育の中で遊びを取り入れながらお箸の使い方を練習しています。

保育者との意見交換より

マイ箸作りに興味を持ってない園児がどのようにしたら興味を持てるようになるか試行錯誤をしている状況でした。遊びを取り入れたお箸の使い方練習は、完成していない園児も完成したらこんな遊びが出来るんだと完成した後の楽しみを見せることで完成させたいと意欲が湧くかもしれないと保育者が考えてたものです。まだ全園児が完成していませんが、進級までには完成を目指して取り組んでいます。

みやざき木育プログラム 年中児後期「マイ箸」作り

モデル園2園が約半年かけて進めてきたみやざき木育プログラム「マイ箸」作り。状況確認の見学を行いました。

見学日時: 令和7年2月18日(火) 10:00~10:30 場 所: ひかりの森こども園(三股町)
令和7年2月18日(火) 11:30~12:00 場 所: あやめ原こども園(都城市)

あやめ原こども園 (都城市)

あやめ原こども園では月1回ペースでお箸作りの時間を設けて実施しています。見学に伺った際、マイ箸が完成した園児は数人でしたが、完成した園児は給食の時間にマイ箸を使って食事をしていました。



マイ箸作りの様子



完成したマイ箸



マイ箸を使って食事

指導者からのコメント

松井 勲尚 氏 (クリエイター, 元岐阜県立森林文化アカデミー教授)

“道具はからだの延長である”

これは、箸という道具も同様です。箸は、スプーンなどの形と違って棒状に見えますが、先端から3センチは、“喰い先”といい、食べ物(摘むなど)確保するための、食べる上でとても重要な部分であります。食べづらい場合は、ぜひ直しながら使ってみて下さい。その日常こそが、自ら考え工夫する力が身につくと同時に、木と共に暮らす生活に繋がると考えます。

吉田 理恵 氏 (musubi代表, 岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師)

楽しく生活習慣を身に付けられるように遊びを取り入れる工夫は、普段から子どもたちの興味関心をよく理解されているからだと思います。子どもたちに工夫する力をつけたいと願う一方で、実は大人の工夫する力も鍛えられているのかもしれないですね。先生たちが良いお手本となつて下さっていることが伝わってきます。

木育マイスターの取り組みのご紹介

みやざき木育マイスター研修を修了した県北の家村さんは、つくしんぼ保育園(延岡市)、ととろ保育園(延岡市)を対象に一年を通して木育活動に取り組みました。



講師: 家村 祐香 氏(みやざき木育マイスター)
場所: つくしんぼ保育園、ととろ保育園(延岡市)

▶ 地域サポーター養成講座

日時: 令和6年9月28日(土)14:00~16:00
場所: つくしんぼ保育園
参加人数: 18名(保育者8名、地域サポーター8名、事務局2名)

みやざき木育プログラムの一つ「森の雫」を実践するための、地域サポーター養成講座を行いました。参加した保育者からは、「木を使ってものづくりをする機会がほとんど無く、新鮮な体験でやりがけに没頭した、子どもたちには、山と身近にある木とのつながりを感じながら森のしずく作りを体験してほしい。」との感想があり



▶ 木のおもちゃであそぶ週間

期間: 令和6年11月8日(金)~15日(金)

講師の家村さんの職場である、有限会社イエムラで家具製造の過程で出た端材を使った手作りおもちゃを20体以上持ち込み、木のおもちゃができるまでや遊び方を説明したり、紙芝居『もりのしずく』の読み聞かせや山の循環の話をしました。おもちゃで遊びながらマイスターと園児、地域サポーターと交流を図りました。その後2週間は園に遊具を設置し自由に遊んでもらいました。



▶ みやざき木育プログラム「森の雫」作り

日時: 令和6年11月12日(火)9:30~11:30
場所: ととろ保育園
参加人数: 28名
(年中児7名、年長児13名、保育者3名、地域サポーター3名、事務局2名)

日時: 令和7年1月28日(火)9:30~11:30
場所: ととろ保育園
参加人数: 24名
(年少児8名、保護者8名、保育者3名、地域サポーター2名、事務局3名)

日時: 令和7年2月28日(金)9:30~10:30
場所: つくしんぼ保育園
参加人数: 25名
(年少児14名、保護者1名、保育者2名、地域サポーター5名、事務局3名)

年少児対象の日は親子参観も兼ねており、保護者と一緒になって木でつくるモノづくりを通じ、山や木について考えてもらう機会になりました。事前にサポーター養成講座を受講していた保育者と地域サポーターの方々に見守ってもらい「森の雫」作りを実践することができました。



都城木青会 リクルート木育

日 時:令和7年2月5日(水)
場 所:緑とほたるの森(都城市)
参 加 者:都城東高等学校 生徒、都城木青会

都城木青会は、高校生を対象にしたリクルート木育事業を実施しました。その様子を木青会の瀬口聖也さんのレポートをもとにご紹介します。

今回参加した都城東高等学校夢サポートコースの生徒たちに、林業・木材産業に触れ、地元で働く意味を考える機会として実施されました。

はじめに、株式会社日東本社にて、東会長および出水氏より林業全般について説明した後、昼食を生徒と共にしながら、さまざまな意見交換を行い、交流を図りました。

その後、「緑とほたるの森」に移動し、以下の3つのプログラムを実施しました。

(1) 重機の操作体験

プロの指導のもと安全対策を徹底し、実際に重機を動かす、木材の取扱い作業に挑戦してもらいました。普段触れることのない大型機械に触れることで、林業の現場での作業に対する理解を深めてもらいました。



(2) 植林体験

森の再生と環境保護の観点から植林作業を行いました。指導員の説明を受けながら苗木を植え、適切な間隔や植え方について学んでもらいました。自らの手で植えた苗木が未来の森を形成し、自然環境への意識を高めるきっかけとなりました。



(3) ドローン・最新林業アプリ体験

現代の林業では、テクノロジーの活用が進んでいます。本体験では、大型ドローンを用いた苗運搬のデモンストレーションを行い、生徒たちは実際の飛行の様子を見学しました。また、最新の林業アプリ「グランディ」を活用し、森林土地の管理や境界線確認の方法について伝えました。デジタル技術の導入が林業の効率化に貢献していることを実感してもらいました。



今回は、伐倒体験や下刈り、植林などの素材生産業の業務内容を縮小した形で、森林資源の「伐って、使って、植えて、育てる」の循環サイクルの一部を体験してもらいました。終了後のアンケートでは、「楽しかった」「外での仕事があっているかもしれない」といった前向きな意見が多く寄せられたとのことです。

このことから、担い手育成として貴重な事業だったことが伺えます。都城木青会では、今後も若い世代への普及活動を継続し、より多くの地域の方々と連携し、次回以降の企画の充実を図っていききたいとのことです。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ